

長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第15週 2025年4月7日（月）～2025年4月13日（日） 2025年4月17日作成

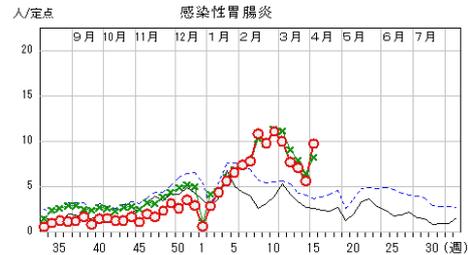
☆定点報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

（1） 感染性胃腸炎

第15週の報告数は302人で、定点当たりの報告数は9.74であった。

年齢別では、2歳（38人）、5歳（36人）、1歳（31人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、西彼保健所（21.00）、長崎市保健所（17.50）、佐世保市保健所（13.00）であった。

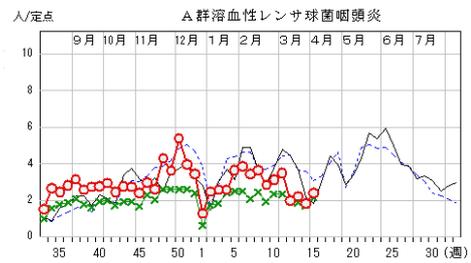


（2） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第15週の報告数は74人で、定点当たりの報告数は2.39であった。

年齢別では、3歳（10人）、5歳（10人）、7歳（8人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（13.67）であった。



（3） RSウイルス感染症

第15週の報告数は61人で、定点当たりの報告数は1.97であった。

年齢別では、1歳未満（30人）、1歳（23人）、2歳（5人）の順に多かった。

定点当たり報告数の多い保健所は、県北保健所（3.50）、西彼保健所（3.33）、佐世保市保健所（3.25）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数に変更されました）

☆上位3疾患の概要

【感染性胃腸炎】

第15週の報告数は302人で、定点当たり報告数は9.74でした。地区別にみると、西彼地区（21.00）は、警報開始基準値「20」を超えています。多くの地区で前週より増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第15週の報告数は74人で、定点当たりの報告数は2.39でした。地区別では、県南地区（13.67）が警報レベルの報告数となっています。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【RSウイルス感染症】

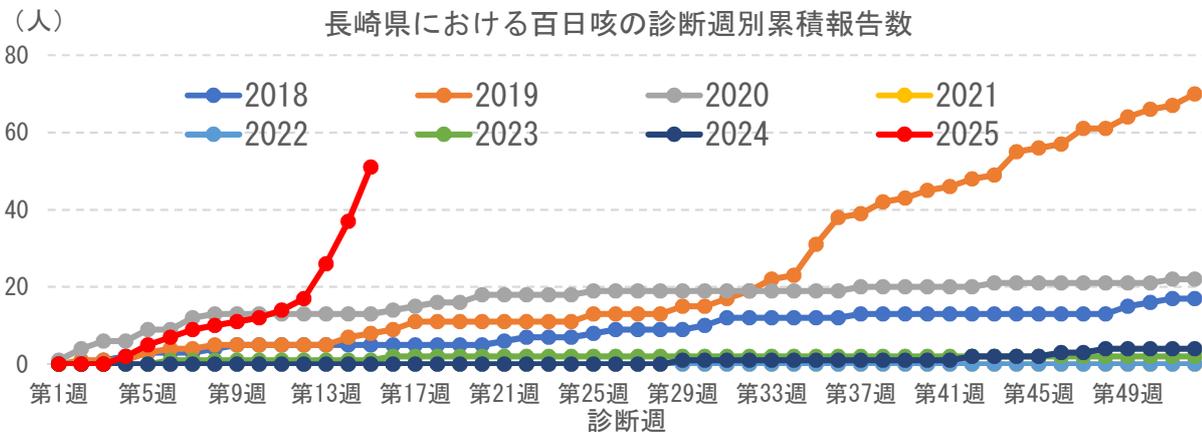
第15週の報告数は61人で、定点当たりの報告数は1.97でした。地区別では、県北地区（3.50）、西彼地区（3.33）、佐世保地区（3.25）が他の地区より多くなっています。

RSウイルス感染症は、発熱や鼻水が主な症状の呼吸器感染症で、通常は軽症で済みますが、一部は重い咳が出て呼吸困難や肺炎になることもあります。接触感染や飛沫感染で一度かかっても再感染し、大人も感染することがあります。乳幼児、特に6ヶ月未満の乳幼児が本ウイルスに罹患すると、呼吸困難を伴う重篤な細気管支炎や肺炎、脳症を発症することがありますので、心臓などに基礎疾患のある小児では特に注意が必要です。乳幼児には、手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診させましょう。

☆トピックス：百日咳の報告が多くなっています

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常5～10日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに2～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。

ワクチンの定期接種により発生数は激減していますが、2025年は第15週までに51件の報告があり、全数把握疾患となった2018年以降において、最多のペースで患者数が増加しています。年代別では、10代が約7割を占めていますが、20代以上でも報告が広がっています。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。



☆トピックス：急性呼吸器感染症（ARI）が5類感染症に位置づけられました

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection：ARI)とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の改正により、令和7年4月7日から急性呼吸器感染症が5類感染症に位置づけられました。ARIの流行の動向を把握すること、未知の呼吸器感染症の発生を探知することを目的に定点把握の対象となりました。県内では人口等を勘案して選定された51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されます。

2025年第15週の定点当たり報告数は「66.24」でした。

ARIの予防には、換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの基本的な感染症対策となります。流行状況に応じて、感染予防に努めましょう。

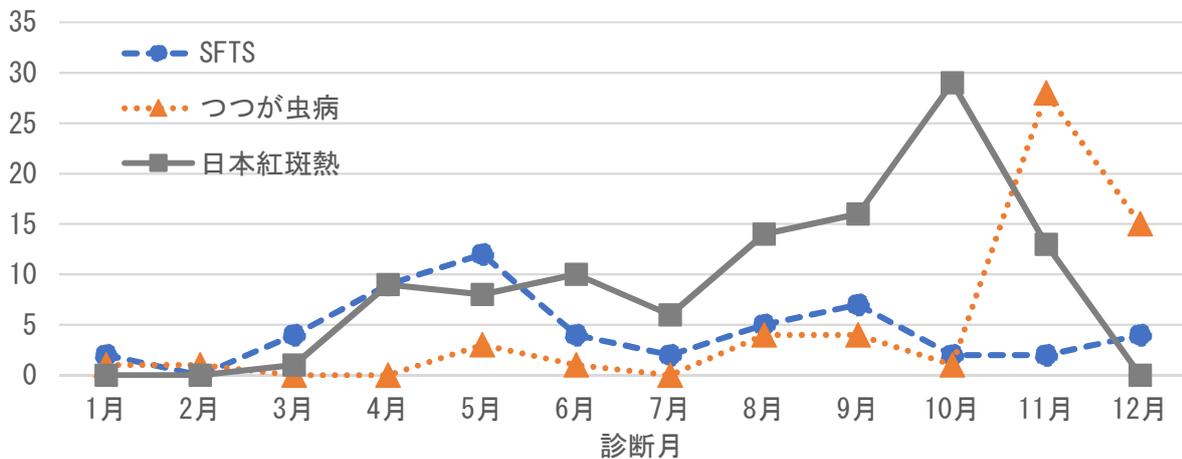
☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月頃から増加します。

マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2025年第15週までに2件の報告があがっています。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

(人) 長崎県におけるダニ媒介感染症の月別累計患者報告数



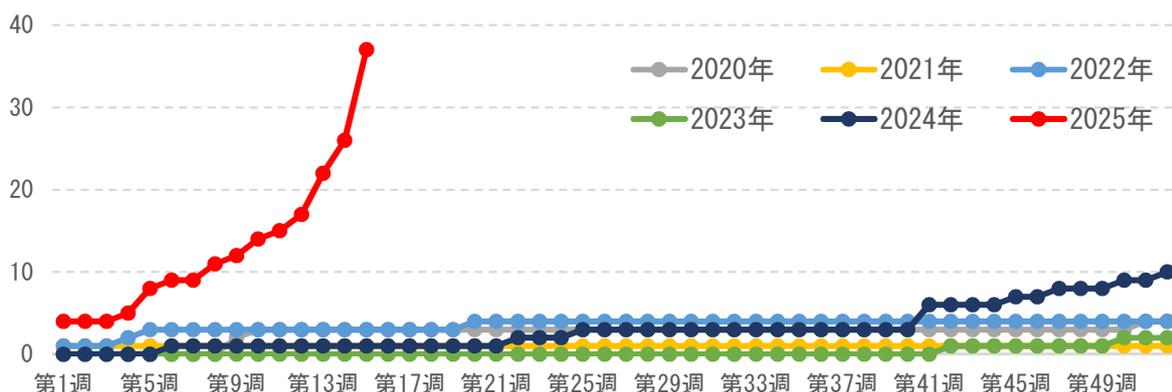
☆トピックス：ロタウイルスによる胃腸炎が増加しています

ロタウイルスは乳幼児の重症急性性胃腸炎の原因となる主要な病原体です。環境中でも安定で、感染力が非常に強いため感染予防が難しいウイルスといわれています。主な感染経路は糞口感染で、通常2日間の潜伏期間をおいて、下痢、嘔気、嘔吐、発熱、腹痛を引き起こします。通常1~2週間で自然に治癒しますが、脱水がひどくなるとショック、電解質異常、時には死に至ることもあります。重症化並びに合併症の予防のため、ロタウイルスワクチンが乳児期の定期接種の対象となっています。

病原体がロタウイルスである感染性胃腸炎の患者は県内の12医療機関から週毎に報告されています。2025年は過去5年のうちで、報告が最も多くなっていますので、注意が必要です。

特に小さいお子さんのいる家庭では、体調管理に気をつけ、下痢症状が見られた場合には、オムツの適切な処理、手洗いの徹底、汚染された衣類等の次亜塩素酸消毒などにより感染拡大防止に努めましょう。

(人) 長崎県における感染性胃腸炎（ロタウイルス）の報告週別累積患者報告数



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核 患者 女性（70代・1名、80代以上・1名）
 無症状病原体保有者 男性（10代・1名、80代以上・1名）

5類感染症(全数把握対象)：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 患者 男性（70代・1名）
 後天性免疫不全症候群 患者 男性（60代・1名）
 梅毒 患者 男性（50代・1名）
 百日咳 患者 男性（10歳未満・3名、10代・2名、40代・1名、50代・1名）
 女性（10歳未満・1名、10代・5名、60代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第10～15週、3/3～4/13)

疾患名	定点当たり患者数					
	10週	11週	12週	13週	14週	15週
	3/3～	3/10～	3/17～	3/24～	3/31～	4/7～
インフルエンザ	0.90	1.33	1.72	1.38	0.99	1.14
新型コロナウイルス感染症	5.10	4.12	3.13	2.07	1.51	1.78
RSウイルス感染症	1.53	2.28	2.02	1.79	1.56	1.97
咽頭結膜熱	0.60	0.56	0.53	0.42	0.35	0.35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.12	3.49	1.98	2.21	1.81	2.39
感染性胃腸炎	11.09	10.00	7.70	7.09	5.65	9.74
水痘	0.33	0.05	0.19	0.16	0.26	0.23
手足口病					0.02	0.06
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.07	0.33	0.23	0.21	0.21	0.29
突発性発しん	0.19	0.33	0.16	0.42	0.21	0.32
ヘルパンギーナ	0.02			0.02	0.05	0.06
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.02	0.05	0.05		0.03
急性出血性結膜炎	0.25	1.00		0.13		0.25
流行性角結膜炎	1.50	0.63	0.38	1.50	0.88	1.88
細菌性髄膜炎	0.08		0.08			
無菌性髄膜炎		0.08			0.08	0.08
マイコプラズマ肺炎	0.25	0.17	0.42	0.25	0.25	0.25
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.17	0.08	0.17	0.42	0.33	0.92

※2025年第15週（4月7日～4月13日）～

急性呼吸器感染症（ARI）						66.24
---------------	--	--	--	--	--	-------

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第15週、4/7～4/13) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.14	1.43	2.18	0.67	1.20	0.88	0.60	1.00			1.00
新型コロナウイルス感染症	1.78	1.29	1.82	1.67	1.60	1.50	2.80	2.33	3.00		2.33
RSウイルス感染症	1.97	3.25	2.83		3.33	1.60	1.67	3.50			0.50
咽頭結膜熱	0.35		0.17	0.50	0.67	0.20	0.33	1.00			1.50
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.39	0.50	1.17		1.67	1.80	13.67	3.00	1.00		1.00
感染性胃腸炎	9.74	13.00	17.50	2.00	21.00	10.00	2.00	11.00			
水痘	0.23	1.00	0.50								
手足口病	0.06		0.17					0.50			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.29		1.33		0.33						
突発性発しん	0.32	0.50	0.50			0.60		1.00			
ヘルパンギーナ	0.06	0.25						0.50			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03		0.17								
急性出血性結膜炎	0.25						2.00				
流行性角結膜炎	1.88		4.00				3.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎	0.25		0.67					1.00			
クラミジア肺炎（ヤム病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.92	4.00	2.00				1.00				
急性呼吸器感染症（ARI）	66.24	76.71	112.55	39.67	81.00	78.13	33.80	45.67	10.33		39.00